

事業計画書

現在の地域課題に対する本事業での実施内容	「地域の活性化」を進展する積極的な市民の誕生を促す視点を「国際交流」に求めて市内の14小学校で授業の一環（45分枠）として令和元年度同様にこの活動支援金を活用してモンゴル伝統民族楽器馬頭琴とピアノの演奏に合わせて「スーホの白い馬」を朗読する出前授業を実施する。（詳細は別紙1の参照ください）
対象となる人・範囲	佐久市立14小学校のうち出前授業を希望する7～8校の児童及び市民（令和元年度の実績規模1,000人程度を想定している）
事業の効果、達成目標 （達成目標はできる限り数値で示すこと） <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content;"> 記載ポイント 事業の ・公益性 </div>	別紙1のとおり
詳細 （活動内容・方法・スケジュール等をできるだけ詳しく、別添資料のある場合はその旨を記載する） <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content;"> 記載ポイント 事業の ・独自性 ・発展性 ・実現可能性 </div>	別紙2のとおり
重点テーマに該当する理由	※該当する場合のみ記入 別紙3のとおり
翌年度以降の取組	本事業は、令和6・7年度で市内小学校14校全てで実施する計画です。令和7年度についてはアンケート結果を参考に継続実施する。

＜事業の効果及び達成目標＞

平成18年「モンゴル国建国800年記念」に際し、日本・モンゴル友好年実行委員会からの要請を受け、佐久市の熱気球とパイロットを派遣したことが縁でモンゴル国ウランバートル市スフバートル区と交流を続け、平成20年8月4日ウランバートル市役所において友好都市協定を締結した。

佐久市は、平成元年に国から交付された「ふるさと創生資金」を「佐久市ふるさとづくり基金」として積み立て、その基金の活用により、次代の佐久市を担う人材を育成するための「佐久市ふるさと創生人材育成事業」を実施し、平成22年から友好都市であるモンゴル国ウランバートル市スフバートル区に市内中学校の生徒を派遣している。

佐久市・モンゴル親善協会は、平成20年3月に市民有志により組織され、これまで佐久市が行う中学生海外研修並びに友好都市モンゴル国スフバートル区の子どもの受入協力や国際交流フェスティバル in 佐久などのイベントへ積極的に参加している。また、平成29・30年度において、長野県地域発元気づくり支援金を活用して中学生及び一般向けのコンサートを令和元年度において、市内17小学校のうち8校で開催した。令和2年度においても計画したが、新型コロナウイルス感染症の拡大により実施を辞退した。

今回においても成果としての児童数は令和元年度と同様の1,000人を想定している。また、同時に学校開放で地域の皆さんも参加できるように市教育委員会および学校に呼びかけていく。

●地域住民の参観による効果

本支援金を受けて当該事業を実施することでより多くの市民がモンゴル国を知る機会が増え、親善意識が深まり、相互の子ども交流が地域に根付き、市民レベルの交流が実現すること目指します。

なお、交流にあたっては市民が友好都市のスフバートル区やモンゴル国へ関心が高まるとともにこれまでの交流の経過を知ること新たな興味関心は地域への愛着や誇りを醸成する一つの方策と考える。

●佐久市が行う中学生海外研修モンゴル国への参加希望者が増加すること。

【中学生海外研修の効果】

国際交流は、未来を担う子どもたちにとって必要な学習活動です。

国際交流は、世界を知る、世界とつながるだけではなく、子ども自身の価値観の広がり、理解の深まり、また、活動に伴う学習へのモチベーションの向上などが期待でき、学力向上にも意味のある学習活動と考える。

異なる文化を持った人々とコミュニケーションをとることは、今までの自分の考えを見直し、視野を広げる機会となる、新たな視点から見れば、気づかなかったことも見えてくる。

【将来】

積極的な市民の誕生が「みんなが何かをしようと思い、それに共感する人が集まれば地域は活性化していく。

年間計画

年間計画	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会事務局打合せ ・講師依頼事項（準備品・リハーサル時間ほか）の調整
	5月	
	6月	<ul style="list-style-type: none"> ・実施校に事業説明
	7月	
	8月	
	9月	<ul style="list-style-type: none"> ・実施校に事前学習資料の配付（講師プロフィール等）
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・リハーサル
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・12日～15日のうち4日間 7～8校で実施 ・アンケート回収
	12月	
	1月	
	2月	
	3月	

<スケジュール>
別紙年間計画参照

<「独自性」の視点>

国際交流に対する市民の関心度は低く、これまでの活動も当協会や佐久市が行う中学生海外研修の認知度を高めることが重要と考えており、その活動の財政基盤を構成員として「佐久市姉妹都市・友好都市親善協会」に置き、佐久市中学生海外研修の引率者等の協力を得て、活動の継続を図りたい。

今回の事業については、日本で活躍するモンゴルのプロの演奏を直接聞ける貴重な時間となる。また、スーホの白い馬は、小学2年生の教科書に取り上げられたおり、内容は馬頭琴の起源の話でもありより教育的観点も特色ある内容となっている。

<「発展性」の視点>

国際交流に対する市民の関心度は低く、これまでの活動も当協会や佐久市が行う中学生海外研修の認知度を高めることが重要と考えており、その活動の財政基盤を構成員として「佐久市姉妹都市・友好都市親善協会」に置き、佐久市中学生海外研修の引率者等の協力を得て、活動の継続を図りたい。

モンゴルの音楽（馬頭琴・ホーミー）を通して佐久市の友好都市モンゴル国への関心を高め、興味が増すことで友好親善意識の醸成が図られ、その結果、国際社会への「関心の高まり」や「視野が広がる」ことが期待できる。

<「実現可能性」の視点>

当協会は、これまで佐久市が行う中学生海外研修並びに友好都市モンゴル国スフバートル区の子供たちの受入協力や国際交流フェスティバル in 佐久などのイベントへ積極的に参加してまいりました。

これらの活動を積極的に行うことでより多くの市民がモンゴル国を知る機会が増え、親善意識が深まり、相互の子ども交流が地域に根付き、市民レベルの交流が実現するよう事業を展開している。

また、事業の実施に当たっては、これまでの活動を通じて交流のある皆様から人物等を紹介していただき計画してきた。今回の馬頭琴演奏者デルゲルマーさんは佐久市・モンゴル親善協会が平成29年度に長野県地域発元気づくり支援金を活用して開催したコンサートに招へいた実績がある方です。

<「団体の自立促進」の視点>

佐久市・モンゴル親善協会は、佐久市姉妹都市・友好都市親善協会を構成する団体で会員は法人会員及び個人会員で組織されています。これまで中学生海外研修に引率として参加した市職員（退職者を含む）は積極的に加入しており、例年佐久市を訪れる子供交流一行の引率者との交流会を毎回開催するなど親善交流の一翼をになっている。

また、これまで会の設立趣旨に沿った事業を県及び市の補助を受け3年間実施しており、この成果（継続して開催したこと）を団体の自立促進の一つの形と考えている。

これまでの活動実績を踏まえ、活動の継続が重要であり、そのためには、会員の一層の加入促進・組織の若返り、当会の設立趣旨確認を会員相互で行うことでより積極的に会に関わる会員が増えることで自立促進を図って行きたい。

<重点テーマに該当する理由>

参考資料

佐久市役所 企画部 移住交流推進課 Webサイト
姉妹都市・友好都市・ゆかりのまち・災害時相互応援協定等
国外 モンゴル国ウランバートル市スフバートル区(友好都市)

モンゴル国スフバートル区との交流の歩み

https://www.city.saku.nagano.jp/shisei/profile/shimaiyukokoryu/shimaiyukoyukari/kokugai/mongol-ulaanbaatar/mogoru_ayumi.files/mojp.pdf

佐久市は、新市発足とともにモンゴル国との交流が熱気球で始まっております。平成18年に日本・モンゴル友好都市実行委員会より熱気球とパイロットの派遣要請があり、モンゴル国建国800年記念行事に参加した。翌年の佐久バルーンフェスティバル2007には駐日モンゴル国特命全権大使夫妻及び横綱朝青龍が参加し、8月には日本・モンゴル外交関係樹立35周年記念行事で熱気球とパイロットがモンゴルを訪ねております。

この交流を契機に駐日モンゴル国特命全権大使及び大使館関係者の佐久市訪問や平成20年1月にはモンゴルの子供たちが佐久市を訪れ、3月に佐久市・モンゴル親善協会が発足しております。これまでの交流の結果8月にはモンゴル国ウランバートル市スフバートル区と友好都市連携協定が締結されました。

その後、5月のバルーンフェスティバル、11月の子ども交流に合わせて、スフバートル区議会議員・区長・駐日モンゴル国特命全権大使及び家族・関係者、中学生海外研修で引率した歴代市職員(退職者を含む)も加わり交流しております。

コロナウィルス感染症の拡大に伴い、子ども交流は中止となっておりますが、駐日大使館との交流は継続されておりました。

佐久市の発足以来、市及び親善協会はモンゴル国ウランバートル市スフバートル区・駐日モンゴル国大使館と途絶えることなく交流をしており、この間、佐久市と親善協会はモンゴル国との友好親善について、車の両輪のごとく協調して当たってきました。

●地域住民の参観による効果

本支援金を受けて当該事業を実施することでより多くの市民がモンゴル国を知る機会が増え、親善意識が深まり、相互の子ども交流が地域に根付き、市民レベルの交流が実現すること目指します。

なお、交流にあたっては市民が友好都市のスフバートル区やモンゴル国へ関心が高まるとともにこれまでの交流の経過を知ること新たな興味関心は地域への愛着や誇りを醸成する一つの方策と考える。